

◇ 標準塗装仕様書

AGCコーテック株式会社

◇工法名	ボンフロンパレローラー微弾性工法		
◇適用素地	コンクリート・モルタル・ALC等 既存塗膜のあるもの(リシン、吹付けタイルなど)		
◇使用材料	下塗	ボンHBサーフェーサーR	16 kg/缶
	中塗	ボンフロン・パレ中塗	15 kg/缶
	上塗	ボンフロンパレ主材 ローラー用	20 kg/缶

工程	使用材料	希釈率 (%)	標準所要量 ^{注1} (kg / m ²)	塗回数	塗装間隔(23℃)	施工方法
素地調整	旧塗膜に脆弱部分のある場合はサンダー・皮スキ・ケレン棒を用いて除去し、下地調整材を用いて段差修正及び模様合わせを行ってください。 高圧洗浄機を用いて、旧塗膜に付着している塵埃・汚れ等を水洗いしながら除去してください。					
1	下塗	ボンHBサーフェーサーR	清水 2 ~ 5 5 ~ 8	0.8 ~ 1.2 0.3 ~ 0.5	1	16h以上 砂骨ローラー ウールローラー
2	中塗	ボンフロン・パレ中塗	清水 0 ~ 5	0.15 ~ 0.18	1	4h以上 ローラー スプレー
3	上塗	ボンフロンパレ主材 ローラー用	清水 1 ~ 4	1.0 ~ 1.2	1	- 砂骨ローラー (標準目)
合 計				3		

注1) 標準所要量については、各種施工方法の塗着効率を下記として算出しております。

施工種	塗着効率(%)
刷毛, ローラー	80~100
エアレススプレー	60~80
各種吹付けガン	50~70

注2) 塗装面が風化したコンクリートやリシン等脆弱な場合はボンカチオンプライマーを塗装してからボンHBサーフェーサーRを塗装してください。

注3) 〈ボンカチオンプライマー〉塗布量/0.10~0.15kg/m² 塗装間隔/2時間以上

注4) ボンフロンパレローラー20kg/缶に対して清水0.2~0.8kg加え、均一になるまでよく攪拌してください。

注5) 施工前にテスト塗装を行いパターン、ローラーの運び具合、材料粘度を確認して下さい。

注6) 他のローラーを使用すると仕上がり状態、塗装作業性等に著しい影響を与えます。

注7) 材料を均一にローラーに含ませてください。

注8) ダメ込は、刷毛等で本施工前に行う。

注9) 中塗は上塗の指定色をご使用ください。

注10) 内外部で施工可能ですが、内部施工の場合は局所排気などの手段を講じて十分に換気を行ってください。

注11) パレローラー用は同じロットであっても、スプレー塗装した場合は凸凹が出しにくい為、影が出来にくいので、ローラー施工した部位より白く仕上がる傾向があります。